

令和元年度第2回茂原市地域公共交通会議 議事概要

日 時 令和元年12月23日(月)
午後2時15分から午後3時30分

場 所 茂原市役所502会議室

出席者 委 員 18名

西條委員、平野委員、大木委員、木嶋委員、古市委員、成田委員、田中委員、梅田委員、飯塚委員、川俣委員(代理:米本)、鵜飼委員、山田(隆)委員、関屋委員、岩瀬委員、渡辺委員、武井委員(代理:子安)、山田(広)委員、藤井委員

事務局 5名

都市計画課 石崎課長、螺良補佐、大橋係長、紺野、市東

会議内容(進行:螺良補佐)

1 開会 午後2時15分

要綱第7条第2項に基づき、出席委員18名で過半数に達しており会議成立。

2 会長あいさつ

3 議事

(1) デマンド交通「ふれあい」・市民バス「モバス」の利用状況について

<質疑>

委 員:市民バスの利用者数の北部地区(コース)が減少しているが、理由としてどのようなことが考えられるか。

事務局:北部コースについては、減少傾向が見られたときに運転手から聞き取り調査を行った。特定の利用者が、いろいろな事情があり同時期に利用されなくなった。そのようなことから減少傾向に至っている。新しい利用者が出てくればよかったが、この特定の利用者が頻繁に利用されていたこともあり、結果として減少傾向になっていると考えている。

委 員:本納地区の人口の分散度が、他の地区より分散していると感じているが、そこを交通機関が通ることと、人口が密集している地区を通ることについてどう考えているか。

事務局:計画を見直しする際に人口密度をみている。車を利用する人が多い地域で、バスを

走らせても利用は少なくなると思う。交通手段の利用状況から需要面を考え、以前あった市民バスの西部コースをデマンド交通に移行した経緯がある。人口が密集している地域には、バスを走らせることにより利用者を多く乗せることができるが、分散している地域であれば、デマンド交通を導入した方が効率は良いと考えている。

委員：最近空き家が増え、特に農村地帯では居住者がいたところが空き家となってきていて、非常に分散が進んでいるように感じる。こういう状況をよく把握して、今後でも取り組んでほしい。

委員：最近の運転免許証の返納状況はどうなっているか。

委員：昨年の茂原警察署管内の免許証返納者が444人、今年11月末で572人が返納済みである。千葉県内では、昨年が18,606人、今年11月末で25,358人が返納済みである。理由としては、テレビ等の影響も大きいと思うが、高齢者の起こす大きな事故を事前に防ぐためにも、事前に返納しようという意識が働いているからだと思う。問い合わせ等で普段から気になっていることは、どうしても返したくない人と、返したいが交通手段がないという2種類の方に分かれていることである。返したいが交通手段がないという相談を1日に数件受ける。茂原市や周辺市町村で市民バスやデマンド交通等がありますとお伝えするが、そこで日々感じることとして、バスは目立つこともあり周知されているが、デマンド交通は高齢者にとって利用方法が分かりづらいのかなと思う。また周知もそこまで浸透していない。近くに親戚や親兄弟もいないような方、町内会に入っていない方というのは、情報が行き届かない。インターネットも利用できないような方に、いかに周知をしていくかが重要である。警察では、駐在所の方が家庭を一軒ずつ回って周知をしている。

委員：市民バス、デマンド交通の必要性を隅々まで周知することが大切だと思う。高齢者の交通に対する意見についてどうか。

委員：社会福祉協議会としては、高齢者の外出機会の確保について、ボランティアによる運転代行などを考えているが、運転手も高齢になる可能性がある。アンケートによると、運転代行があれば利用したいという方もいるが、運転手があまりいない。もう一つは、個人が所有する車を使って、万一、事故が起きてしまったときに、責任分担をどうするかが問題である。社会福祉協議会としては、財政的に補助することも厳しい。他の町で社会福祉法人が運営する施設のバスがあり、デイサービス等で使っているが難しいことがある。それは、デマンド交通でハヤシ等に行けたりすると思うが、送迎が特定の場所に集中してしまう。そうすると、営業ナンバーの送迎等の営業妨害にもなりかねないし、そのバスを所有する施設が、特定のお店を支援する形になってしまう。そういう点をどうするかが課題である。

委員：社会福祉協議会だけの問題ではなく、地域公共交通の問題として全体的に考える問題であると思う。いろいろな立場や組織で、問題になっている高齢者の送迎につい

て、協議を進めていく必要がある。

(2) 令和元年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金における事業評価について

採決の結果、賛成多数により承認

4 その他

委員：デマンド交通登録者数の目標値を750人と掲げているが、登録者数を伸ばせば必ずしも利用者が増えるわけではない。二宮地域は、デマンド交通登録者数が多い割には利用者が少ない。事前に事務局に聞いたところ、この地域は民間路線バスが通っていることが理由として考えられると回答があった。登録しているのに利用していない地域をどう考えるか。登録者数750人という目標があるが、実際に利用する人を事務局がどう把握するかが大切である。利用者がどういう動向か。利用動向を見てみると、ほとんどの方が通院、買い物である。バス路線で担保できない地域をいかにデマンド交通で補うか。地域の中に入って声を聞いていかないといけない。登録者数の見かけ上の数字はあがっていても、実利用数には繋がってこない。

市民バスの利用者数だけをみると、ポンチョで運行する必要があるのかと思う。特に北部コースをみると1.9人/便で、これは他の自治体をみると、デマンド交通の相乗り率に相当する数字であるため、ポンチョを動かす必要はなさそうである。具体的な運行方式を確認しなければならないが、ポンチョでなければいけない理由が明白でなければいけない。タクシー事業者でも担える交通手段かもしれない。例えば、ワンボックス、ジャンボタクシー、セダンタクシー等を活用して、バス事業として展開するのか、タクシー事業者が参入できて移動の便宜を担っていくのか。地域で本来あるべく姿を探っていく必要がある。ポンチョがあるから利用するという理論ではなく、地域の交通手段の体系的な使い方を推進するために考える必要がある。定時定路線型(市民バス)で運行している北部豊岡地区(北部コース)では、デマンド交通の対象エリアを拡げていくことを検討するような位置付けにある地域であると思うので、今後の検討材料の1つとしてほしい。

市民バスとデマンド交通の1日の利用者数を合わせて目標値110人ということで、順調に伸びてきていると思う。自治体として収支率だけでは議論できないとは思いますが、デマンド交通収支率15%程度はやめるかを判断する数字

である。ただ、茂原市が公共交通の足を確保するために、尽力するという姿勢が出ているならば、これは継続すべきである。公共交通の足を確保することが健康寿命を伸ばすこと、外出の機会を増やすことになる。その外出機会を増やすことが、特定の人だけでなく全体的な外出機会を増やすことになっているか検証しないといけない。ヘビーユーザーに頼っている公共交通の数値は、市民全体の公共交通利用の促進を図って、健全な利用スタイルを伸ばしていることには繋がらないケースもある。

先程、ボランティアの話も出たが、静岡県裾野市千福が丘という約1,000世帯の地域で、バスが無くなるという状況におかれている。現状、往復2便程度しか運行していない。そこで市民の移動手段の足を確保するために、ボランティア輸送を行っている。公共交通がない所を補完する仕組みである。そのため、茂原市は交通機関がないわけではないので、ボランティア輸送は使いにくい状況にあると思う。裾野市ではボランティアで運転する人が18名登録している。運転手は国交省や県警等の安全運転講習会に参加すること。利用者はもし事故が起きてしまった場合は利用者の保険で対応すること。このような相互理解のもと、基本的には無料で運用している。ただ、通勤、通学等で利用されるケースは定時に間に合わせるように届けることが必要になってくるので、地域のボランティアでは難しい。

NPOに相当するようなものであるが、富津市では現在、社会福祉法人が運行している車両が1台ある。福祉有償運送事業を行っているが、その地域は鉄道駅があって、そこにタクシーの駅待ちがない。タクシーを利用したくても利用できない地域の方に交通手段の確保ということで、市内にはタクシー事業者はあるものの、実質的に活用できない地域を社会福祉法人で補完している。茂原市として、どういう人たちの移動を支えたいのか、その支える地域がどういう状況にあるのかということを整理していかないといけない。

学校の統合に伴って、通学の足を確保するため、文部科学省の補助金を活用したスクールバスがあると思うが、そのバスの別利用も検討していくことが必要である。

委員：交通のニーズ、利用の仕方はいろいろあると思う。働き方改革で労働面に関して厳しくなっていて、どうすべきか協議は重ねているが、明らかに運転手が足りない。そのため、ダイヤを減らすか、乗車率の低い路線から撤退していくことになる。また、今のダイヤの1/3程度をなくさないで運行していけない状況である。一番懸念していることは、利用者が何人も乗っていないということである。長柄町民バスは来年3月で撤退する。長南町のデマンド交通利用者は、約1万人に対しバス利用者は年間で500人足らずである。長柄町民、長南町民は買い物等で茂原市に行く動向がみられる。長南町民バスで長南町か

ら茂原市まで、茂原市民バスが長南町の地域までというような利便性がないと小さな町だけで運行していても価値がない。茂原の市民バスはまだ病院、スーパーに行けるためいいが、町民バスは茂原に行けないと役にたたない。働き方改革で労働時間等の規制が厳しく運転手が足りない状況にあり、正常にバスダイヤが回らなくなってきた。路線バスも利用客が少ないところから随時、撤退まではいかなくてもダイヤの削減はあると思う。

5 事務連絡

前回の会議において、委員からの意見で茂原駅南口にあるバス乗り場の案内板に市民バスの案内がなかったとの意見があった。事務局で確認したところ、小湊鉄道さんの所有であったため、小湊鉄道さんのご理解ご協力いただき掲示した旨を報告。前回の会議概要について、訂正等があれば令和2年1月17日（金）までの連絡を依頼。

また、今年度の会議は当会議で最後であることと委員の任期も今年度で満了となることの報告。来年度以降については改めて要綱に基づき委嘱、任命する。次回の会議開催時期について、来年の6月頃を予定していることを連絡。

6 閉会 午後3時30分